

科目名	法社会学	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	法社会学は、法ルールとそれが作動している社会の相互作用を、いわば「監督の眼」や「プレイヤーの眼」で観察する科学である。本講義は法社会学の入門科目であり、法社会学の見方・考え方を取り上げ、それが「審判者」にとっても有益であることを学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法社会学における法の概念を理解する。 ・民事司法過程／刑事司法過程における実定法と社会の相互作用を理解する。 ・具体例を通して、法をつくり法を活かす感覚をつかみ取れる。 ・適切な資料・データの探索と分析・整理ができる。
授業計画	(1) インTRODクシヨンー法社会学とは／授業の進め方 (2) 法社会学における法の概念（第1章） (3) 法専門職その1（第2章） (4) 法専門職その2（第2章） (5) 民事司法過程その1（第3章） (6) 民事司法過程その2（第3章） (7) 民事司法過程その3（第3章） (8) 刑事司法過程その1（第4章） (9) 刑事司法過程その2（第4章） (10) 刑事司法過程その3（第4章） (11) 行政過程（第5章） (12) 日本の法と社会その1ー日本の土地法制・都市法と土地利用統制の現実 (13) 日本の法と社会その2ー日本社会における「土地所有権」の意味と変化 (14) 日本の法と社会その3ー区画整理・都市再開発・災害と住宅問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	教科書・参考文献の指定部分を事前に読んでおくこと。
	事後学習	不定期に授業冒頭で復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】村山眞維・濱野亮『法社会学』有斐閣, 2003年 ISBN 4641122059 【参】本間義人『土地問題総点検 [増補版]』有斐閣, 1990年 ISBN 4641181373 『講座現代居住4 居住と法・政治・経済』東大出版会, 1996年	
成績評価方法と基準	<方法>定期筆記試験80%/課題遂行10%/ワークシート10% <基準>科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	講義だけでなく、資料探索と整理等の課題を組んでいることを熟知しておいて欲しい。	